

No.					市立甲府病院 機能仕様書
Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	Lv5	要件項目
19	1				システム基本機能
19	1	1			ログインユーザーにより、機能制限が可能であること
19	1	2			エラー発生時、一覧画面にてエラー内容の確認が可能であること
19	1	3			画面レイアウトが構築時に変更可能なこと。
19	1	4			帳票レイアウトが構築時に変更可能なこと。
19	1	5			統計の抽出条件が設定により変更可能であること
19	1	6			コードによる入力を行う際、マスタの参照が可能であること
19	1	7			マスタ参照時、名称の一部を入力することにより、マスタの表示内容を絞り込むことが可能であること
19	1	8			コード入力時、コード入力エリアと名称表示同一エリアになっており、画面内の表示可能項目をより多くできること
19	1	9			一覧画面から詳細画面、詳細画面から前回値画面、帳票出力画面等への遷移が簡単にできること
19	1	10			詳細画面の表示検体に対して、帳票出力が可能であること
19	1	11			帳票出力業務毎に、専用の出力指示画面を用意でき、出力条件を画面毎に複数用意できること
19	1	12			複数ある出力条件から、初期条件を指定でき、必要に応じて、初期条件からの変更も、可能であること
19	1	13			日付の開始・終了の範囲指定を行う際、カレンダーによる日付指定が可能であること
19	1	14			日付の範囲指定の際、開始と終了を一度に指定可能であること
19	2				ソフトウェア基本条件
19	2	1			到着確認
19	2	1	1		電子カルテまたはオーダーリングシステムで出力された採取ラベルバーコードを読み取り、検体の到着確認ができること
19	2	1	2		一般細菌、抗酸菌、迅速検査の到着確認が可能であること
19	2	1	3		一般細菌にて、材料グループ毎に検体番号の番号帯を指定し到着確認できること
19	2	1	4		採取予定日を過ぎたオーダ情報の、一括削除が可能であること
19	2	1	5		オーダの再要求が可能であること
19	2	1	6		到着確認時、結果カラ電文の送信が可能であること
19	2	1	7		到着確認時、ラベル出力が可能であること
19	2	1	8		到着確認を行った検査依頼の詳細情報が画面で確認可能であること
19	2	1	9		到着確認時、ログインした職員コードを、担当者コードとして代入できること
19	2	1	10		採取日の未来日チェックが可能であること
19	2	1	11		他部門検査のチェックが可能であること
19	2	2			受付入力
19	2	2	1		画面より検査依頼と患者属性情報の登録、及び、訂正が、1検体毎に可能であること
19	2	2	2		受付入力時、検体番号は、自動採番が可能であること
19	2	2	3		検体番号発番にて、日付、番号の自動付番もしくは手動付番の選択が可能なこと。
19	2	2	4		検体番号は年通番、月通番、日通番が選択可能であること
19	2	2	5		一般細菌、抗酸菌で個別に検体番号の通番方法を選択可能であること
19	2	2	6		受付入力時、入力簡素化のために、前検体の患者情報を、引き継ぐことが可能であること
19	2	2	7		一般細菌と抗酸菌、それぞれの受付番号で依頼項目を選択可能であること。
19	2	2	8		受付入力画面から、前回値画面へ遷移可能であること
19	2	2	9		詳細受付画面に表示されている検体情報を培地ラベル（帳票）に出力が可能であること
19	2	2	10		材料、検査依頼により、培地情報の自動発生が可能であること
19	2	2	11		感染履歴として、特定菌毎に初回、前回、最新の検出日付を持つことができること。
19	2	2	12		感染履歴の特定菌は20種類まで指定可能であること。
19	2	3			依頼受付チェックリスト
19	2	3	1		受付けた検体情報の一覧出力が可能であること。
19	2	3	2		受付チェックリストの出力管理が可能であること。
19	2	4			未到着リスト
19	2	4	1		未到着検体一覧の出力が可能であること。
19	2	4	2		一覧画面から未到着リスト印字が可能であること。
19	2	4	3		未到着リスト作成時、印刷済みは対象外にできること。
19	2	4	4		採取日を指定して、オーダ情報の一括削除が可能であること。
19	2	5			ワークシート
19	2	5	1		ワークシートの出力が可能であること。
19	2	5	2		1検体で複数のワークシートフォーマットが出力可能であること。
19	2	5	3		出力管理が可能であること。
19	2	5	4		前回値の印字が可能であること。
19	2	5	5		前回値情報として、全材料、同一材料グループ、同一材料で選択表示可能であること。
19	2	6			培地ラベル
19	2	6	1		培地ラベルの出力が可能であること。
19	2	6	2		必要な培地毎の枚数の合計分、出力可能であること。
19	2	6	3		培地名を印字できること。
19	2	6	4		出力管理が可能であること。
19	2	7			一般細菌結果入力（詳細）
19	2	7	1		一般細菌、特殊（迅速）検査の結果登録、及び、訂正を1検体毎に行なえること。
19	2	7	2		詳細結果入力画面から、前回値画面へ遷移可能であること。
19	2	7	3		画像の表示が可能であること。
19	2	7	4		検査結果は、コード入力が可能であること。
19	2	7	5		結果値のコードなどはマスタが一覧で表示できること。かつ検索文字列による絞り込みが可能であること。
19	2	7	6		コメントの入力が可能であること。
19	2	7	7		塗抹鏡検査からBVスコアの自動計算が可能であること。
19	2	7	8		1検体あたり10菌株の結果登録が可能であること。
19	2	7	9		1菌株あたり64薬剤の結果登録が可能であること。
19	2	7	10		薬剤感受性結果はMIC値、阻止円径、判定の入力が可能であること。
19	2	7	11		菌と薬剤MIC値から、判定の自動計算が可能であること。
19	2	7	12		菌と薬剤阻止円径から、判定の自動計算が可能であること。
19	2	7	13		判定の自動計算は、マスタにより追加変更が可能であること。
19	2	7	14		同定、薬剤感受性結果の入力内容により、警告菌チェック（警告・耐性・異常・注意等）が可能であること。

19	2	7	15	無菌材料からの菌検出内容により、警告菌チェック（警告・耐性・異常・注意等）が可能であること。
19	2	7	16	警告菌チェックにて菌名の変更、もしくは菌説明コメントに自動表示が可能であること。
19	2	7	17	警告菌チェックは、マスタにより内容を追加変更が可能であること。
19	2	7	18	警告菌チェックにて菌名の変更後、再度、判定の自動計算が可能であること。
19	2	7	19	菌名、菌量などの結果表示の際、指定の色で表示可能であること。
19	2	7	20	薬剤感受性結果の時系列参照が可能であること。
19	2	7	21	患者時系列画面より結果を複写入力が可能であること。
19	2	7	22	パネル指定時の薬剤以外に、使用（投与）薬剤、追加薬剤を感受性薬剤として、容易に展開可能であること。
19	2	7	23	迅速検査結果として、定性値、コメントが入力可能であること。
19	2	7	24	前検体、次検体へは、ワンボタンで、表示が可能であること。
19	2	7	25	1検体毎に受付済み検査依頼の削除が可能であること。
19	2	7	26	表示検体の報告書が出力可能であること。
19	2	7	27	表示検体を電子カルテに結果送信可能であること。
19	2	8		抗酸菌結果入力（詳細）
19	2	8	1	抗酸菌検査の結果登録、及び、訂正を1検体毎に行なえること。
19	2	8	2	詳細結果入力画面から、前回値画面へ遷移可能であること。
19	2	8	3	画像の表示が可能であること。
19	2	8	4	検査結果は、コード入力が可能であること。
19	2	8	5	結果値のコードなどはマスタが一覧で表示できること。かつ検索文字列による絞り込みが可能であること。
19	2	8	6	コメントの入力が可能であること。
19	2	8	7	QFT検査結果の入力が可能であること。
19	2	8	8	塗抹鏡検検査は蛍光法、チル社®法の2種類の検査結果が入力可能であること。
19	2	8	9	PCR検査結果の入力が可能であること。
19	2	8	10	培養検査は固形培地、液体培地の2種類の検査結果が入力できること。
19	2	8	11	1検体あたり3菌株の結果登録が可能であること。
19	2	8	12	1菌株あたり同定検査結果を5項目登録が可能であること。
19	2	8	13	1菌株あたり32薬剤の結果登録が可能であること。
19	2	8	14	薬剤結果は感受性検査結果の入力が可能であること。
19	2	8	15	1検体毎に受付済み検査依頼の削除が可能であること。
19	2	8	16	表示検体の報告書が出力可能であること。
19	2	8	17	表示検体を電子カルテに結果送信可能であること。
19	2	9		一般細菌結果入力（一覧）
19	2	9	1	塗抹、迅速検査の結果登録、及び、訂正を複数検体/1画面で行なえること。
19	2	9	2	一覧入力の入力対象検体を、目的に応じて絞込むことが可能であること。
19	2	9	3	一覧入力の表示順を変更でき、表示された一覧順に、入力可能であること。
19	2	9	4	同一結果の一括入力が可能であること。
19	2	9	5	一覧画面から詳細画面に画面移動が可能であること。
19	2	9	6	一覧表示されている検体の報告書が出力可能であること。
19	2	9	7	一覧表示されている検体を電子カルテに結果送信可能であること。
19	2	10		抗酸菌結果入力（一覧）
19	2	10	1	塗抹、PCR、培養の結果登録、及び、訂正を複数検体/1画面で行なえること。
19	2	10	2	一覧入力の入力対象検体を、目的に応じて絞込むことが可能であること。
19	2	10	3	一覧入力の表示順を変更でき、表示された一覧順に、入力可能であること。
19	2	10	4	同一結果の一括入力が可能であること。
19	2	10	5	培養結果は液体培養と固形培養の2種類の検査結果が登録できること。
19	2	10	6	固形培養は培養週毎に指定して入力が可能であること。
19	2	10	7	一覧表示されている検体の報告書が出力可能であること。
19	2	10	8	一覧表示されている検体を電子カルテに結果送信可能であること。
19	2	11		前回値表示
19	2	11	1	詳細画面、もしくは、一覧画面でカーソル指定されている患者番号から、ワンボタンで前回値画面に遷移可能であること。
19	2	11	2	前回値情報として、全材料、同一材料グループ、同材料等で選択表示可能であること。
19	2	11	3	基準となる検体から前回値検体、全検体の選択表示可能であること。
19	2	11	4	一般細菌の前回値画面に表示されている検体から、指定された菌を時系列表示可能であること。
19	2	11	5	指定された菌を時系列表示で薬剤感受性結果も薬剤毎に時系列に表示可能であること。
19	2	12		分析器オンライン
19	2	12	1	分析器へ依頼情報の送信、および結果情報の受信が可能であること。
19	2	13		報告書
19	2	13	1	検査結果報告書の出力が行えること。
19	2	13	2	1検体で複数の報告書フォーマットが出力可能であること。
19	2	13	3	報告書フォーマット毎に出力管理が行えること。
19	2	13	4	詳細画面で指定した報告順で、菌株毎の結果を並び替えて印字が可能であること。
19	2	14		検査結果台帳
19	2	14	1	検査結果台帳の出力が行なえること。
19	2	15		管理帳票
19	2	15	1	検査終了後の特定情報を一覧帳票に出力が行なえること。
19	2	15	2	医事会計追加検査一覧の出力が可能であること。
19	2	15	3	感染対策提出用の特定菌検出一覧の出力が可能であること。
19	2	16		任意データ抽出
19	2	16	1	指定の条件で抽出された検体情報をファイルに出力可能であること。
19	2	16	2	出力されるファイルはEXCEL形式であること。
19	2	16	3	一般細菌・抗酸菌・特殊検査より出力可能であること。
19	2	16	4	一般細菌・抗酸菌のデータは検体単位、もしくは菌株単位に出力できること。
19	2	16	5	感染対策提出用の特定菌検出一覧の出力が可能であること。
19	2	16	6	感染対策用の特定菌はマスタにて追加・変更等のメンテナンスが可能であること。
19	2	16	7	特定菌検出情報出力時、新規検出のみで出力可能であること。
19	2	16	8	JANIS検査部門サーベイランスデータの出力が可能であること。
19	2	17		検索
19	2	17	1	検査結果の問合せが可能であること。
19	2	17	2	患者番号、患者名、科、病棟等での検索が可能であること。

19	2	17	3	検索後、対象検体の結果入力がおこなえること。
19	2	17	4	1 検体毎の検査進捗状態で抽出でき、一覧に進捗状態が表示できること。
19	2	18		統計
19	2	18	1	検索条件に合致した検体を対象に各種統計の出力が行なえること。
19	2	18	2	統計表+グラフの出力が行えること。
19	2	18	3	統計は E X C E L ファイルに出力できること。
19	2	18	4	菌出現率が出力できること。
19	2	18	5	菌出現率で同検体判断の設定ができること。
19	2	18	6	菌陽性率が出力できること。
19	2	18	7	菌陽性率で同検体判断の設定ができること。
19	2	18	8	菌検出率が出力できること。
19	2	18	9	菌検出率で同検体判断の設定ができること。
19	2	18	10	薬剤感受性率が出力できること。
19	2	18	11	薬剤感受性率で同検体判断の設定ができること。
19	2	18	12	累積 M I C 率が出力できること。
19	2	18	13	累積 M I C 率で同検体判断の設定ができること。
19	2	18	14	特殊検査陽性率が出力できること。
19	2	18	15	特殊検査統計で同検体判断の設定ができること。
19	2	18	16	検体件数が出力できること。
19	2	19		集計
19	2	19	1	各種検査依頼等の件数集計を行なえること。
19	2	19	2	薬剤感受性検査の件数は検査結果から集計が可能であること。
19	2	19	3	薬剤感受性検査の件数は真菌のみで集計が可能であること。
19	2	19	4	件数と、件数に医事点数を積算した集計が可能であること。
19	2	20		電子カルテ・オーダーリングシステム連携
19	2	20	1	電子カルテ・オーダーリングシステムとのオンラインが可能であること。
19	2	20	2	細菌部門のオーダー情報の受信、到着確認情報、検査結果情報の送信が可能であること。
19	2	21		データ保存
19	2	21	1	外部媒体に検査データ、マスタの保存が可能であること。
19	2	22		マスタメンテナンス
19	2	22	1	材料マスタ、菌マスタ、薬剤マスタ等のコードマスタを、容易に画面から、メンテナンスが行なえること。
19	2	22	2	マスタは管理者のみが修正、登録可能であること。
19	2	23		帳票レイアウト設定
19	2	23	1	帳票レイアウトの設定、変更が容易に行なえること。
19	2	23	2	文字のフォント、ポイントの指定が自由に設定可能であること。
19	2	23	3	罫線でポイント、実線or破線の指定が自由に設定可能であること。
19	2	23	4	網掛け、色指定が設定可能であること。
19	2	23	5	縦連、横連の設定ができること。
19	2	23	6	一般細菌と抗酸菌で20種類づつのフォーマット設定ができること。またカラー印刷が可能であること。
19	2	23	7	検体番号、患者番号のバーコード情報が印字可能であること。
19	2	24		画像
19	2	24	1	画像取込み画面より、任意のフォルダーより指定画像を取り込み可能なこと。
19	2	24	2	画像を帳票に印字可能であること。
19	2	24	3	画像毎に関連するコメントを登録することが可能であること。
19	2	24	4	画像毎に登録したコメントで検索が可能であること。